

## 「ADCS 論文集」 執筆要領

1. 原稿は、題目、著者名、本文執筆語要旨、英文要旨、キーワード、著者の所属、本文、補遺、注、参考文献の順に書く。
2. 原稿は横書きとする。
3. 原稿量は、図表・注・参考文献を含み、刷り上りが下限 6 ページ、上限 14 ページまでの、偶数ページとする。
4. 原稿の 1 ページ目には、次の事項を記述する。

① 題目(主題目および副題目)：本文執筆語および英語

- ・主題目は、本文に記載されている内容が明確にわかるように記す。
- ・主題目は、「…に関する研究」などの表現をしない。
- ・副題目には、主題の研究手段、目的などを記す。

例 1) 地域資源の活用に基づく地域活性化計画の方法論

—河南省洛陽地域における現地調査を通して

例 2) 伝統的設計と現代的設計との相克

—既刊の文献・事例解析に基づく 21 世紀設計理念の探求

例 3) 中国洛陽唐三彩陶芸の技術的変容

—古文献解析ならびに陶芸工房職人への聴き取り調査を通して

② 著者名：本文執筆語および英語

③ 要旨：本文執筆語 500 字程度

④ 英文要旨：300 words 程度

⑤ 本文の内容を表すキーワード：本文執筆語および英語 3～5 語

⑥ 著者の所属：本文執筆語および英語

5. 本文は、1 ページに記載する上記の①～⑥に続いて始め、6、8、10、12、14 ページのいずれかで終わる。
6. 原稿はすべて、本学会指定の割付様式に準拠し、A 4 の用紙に原寸で作成する。
7. 原稿の文体は「である」調を基本とする。
8. 見出しのつけ方は次のようにする。章が変わるときには 1 行空けて、節・項・目が変わるときには、1 行空けない。  
章：1. 2. 3. …  
節：1.1. 1.2 1.3. …  
項：(1) (2) (3) …  
目：①②③…

9. 数字は原則として算用数字を用い、例えば、7 cm、15g、1.258、5時間のように記す。また、数字は、1桁の場合は全角、2桁以上の場合には半角を用いる。
10. 年号、月日は、原則として算用数字を用いる。また、年号は西暦による表記とし、元号を併記する場合には、例えば1963(昭和38)年のように記す。
11. 図表のタイトルのつけ方は次のようにする。
- ①図・写真のタイトルは、図・写真の下につける。
  - ②表のタイトルは、表の上につける。
  - ③図・表・写真には、それぞれのタイトルの前に一連の番号をつける。
- 例1) 図1. 洛陽地域における陶芸工房の地理的分布
- 例2) 表1. 洛陽地域における陶芸工房職人数の時代的变化
- 例3) 写真1. 洛陽工房における焼成窯
12. 本文中における注は、注をつける語の後に〔注1〕〔注2〕…と記す。
- また、原稿最後部に次のように記す。
- 例1) 注1 日本太郎『日本の設計図譜』太陽出版社 2008 p.16
- 例2) 注3 東海五郎『唐三彩の意匠特質』『設計学』名月書房 1978pp.41-47
- 例3) 注5 リーチ, E. 『文化と文明』青山一郎訳 山中出版局 1898 (Leach, E. "Culture and Civilization", Cambridge Press, 1887)
- 例4) Leach, E. "Forms and Function", National Press, 85, 1998
- 執筆に際しては、以上のほか、別紙の割付様式を参考にしてください。

本執筆要領は、2019年11月1日以降に受け付ける研究論文から施行する。

2019年10月30日 制定